

平成26年5月13日(火)

平成26年3月期

株式会社 カネカ

決算概要

カガクでネガイをカナエル会社

KANEKA

目次

§ 業績概要	P. 3
§ セグメント別事業概況	P. 4
§ 業績予想	P. 5
§ トピックス	P. 6

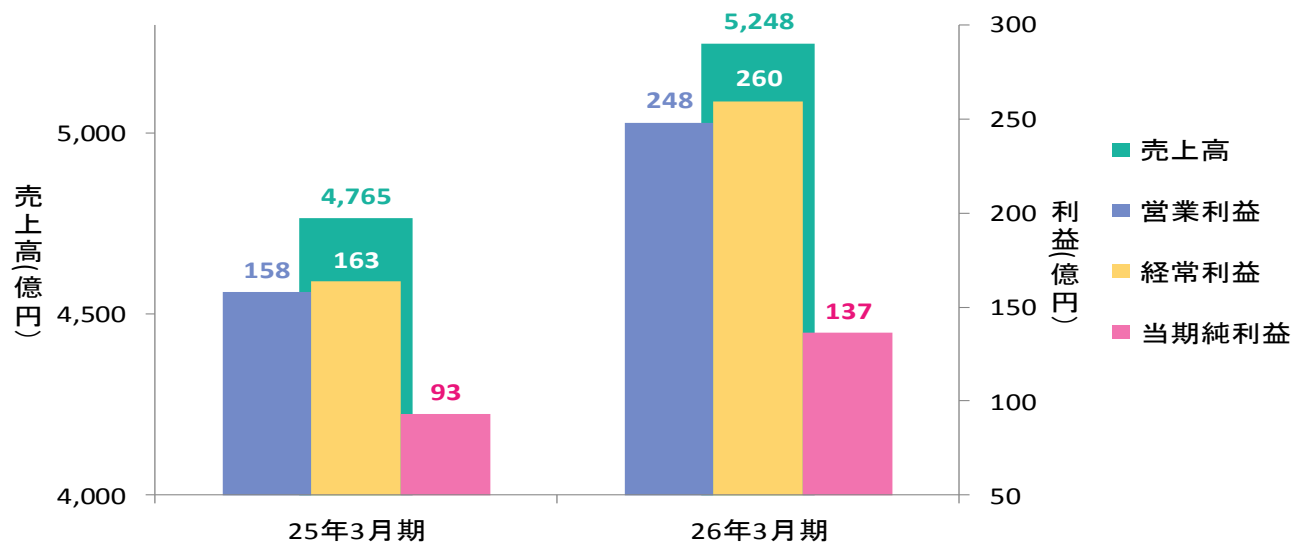
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

- ◎ 売上高は過去最高*を更新 *20年3月期：5,030億円
- ◎ 対前年で各利益段階とも増益

(単位:億円)

	25年3月期	26年3月期
売上高	4,765	5,248
営業利益	158	248
経常利益	163	260
当期純利益	93	137



セグメント別 事業概況

- ◎全セグメントで増収、4セグメントで増益。特に機能性樹脂と合成繊維が大きく寄与。
- ◎全てのセグメントで黒字化。

- エレクトロニクス：超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料の販売が増加。透明導電性フィルム（ITOフィルム）本年度事業化。太陽電池は、美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品としての市場認知が進み、国内住宅市場向け販売が増加
- ライフサイエンス：還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果が広くサプリメント市場に伝わり順調に需要拡大が進み販売が増加
- 機能性樹脂：モディファイヤーは事業拡大が国内外で進んだ。変成シリコンポリマーは、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに順調に拡大
- 合成繊維、その他：アフリカ市場での頭髪分野を筆頭とした当社の長年の市場開拓の努力が実を結び、市場拡大する中、高付加価値品の拡販進む

(単位：億円)

	売上高		営業利益	
	25年3月期	26年3月期	25年3月期	26年3月期
化成品	948	1,040	44	28
機能性樹脂	709	863	62	93
発泡樹脂製品	581	665	40	43
食品	1,322	1,343	53	50
ライフサイエンス	471	474	96	78
エレクトロニクス	415	475	△40	6
合成繊維、その他	318	388	44	86
調整額	—	—	△141	△135
計	4,765	5,248	158	248

業績予想

(単位:億円)

	26年3月期実績		27年3月期予想		前年比	
	上期	通期	上期	通期	通期	
売上高	2,572	5,248	2,700	5,600	352	6.7%
営業利益	114	248	120	300	52	20.9%
経常利益	118	260	120	290	30	11.7%
当期純利益	71	137	75	170	34	24.5%

【27年3月期 前提条件】 為替：102円/US\$、140円/EUR、国産ナフサ¥70,000/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(設備投資)

○抗体医薬品精製用プロテインA担体大型生産設備導入

抗体医薬品精製用プロテインA担体(製品名: KANEKA KanCapA™)の将来需要に対応すべく、大型生産設備の導入を決定いたしました。設備の稼働は、2015(平成27)年の初めを予定しています。5年後に100億円以上の売上高を目指します。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140326>



(グローバル展開)

○BASFアクリル系モディファイヤー事業譲受

Kaneka Belgium N.V. は、BASF SEと、同社のアクリル系モディファイヤー事業譲受到に合意し、資産譲渡契約を2013年12月4日に締結しました。

本年2月11日に欧州連合競争法上の当局承認が得られ、3月31日をクロージング日として譲受手続きが完了しました。

2011年のEvonik社からの事業譲受到に引き続き、今回のBASFからの譲受により、欧州におけるアクリル系モディファイヤー事業の強化を図ります。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140402>
<http://www.kaneka.co.jp/service/news/131206>



(新製品)

○新しい付けマーガリン、純生クリームブレンド用乳素材、天然素材フレーバーを開発

高級発酵バター風味を備えた高級志向のパンや菓子向けコンパウンドマーガリンの「ハイレッシュHG」、純生クリームに一定割合でブレンドすることにより、純生クリームの風味を損なわず、ホイップ作業の安定化や良好な保型性が得られる純生クリームブレンド用乳素材の「ラシエンテα」、当社の独自抽出技術により天然素材より抽出したフレーバー「カネカフレーバーバニラ100」、「カネカフレーバーシトラスベース」を開発し、4月から本格販売を開始しました。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140227>



○動物用タンパク質医薬品の開発を本格化

遺伝子組換え技術を応用し、猫用の貧血治療薬の開発を科学技術振興機構研究成果展開事業A-STEP委託開発を活用し進めています。この治療薬は、貧血を発症した猫のQOL(クオリティーオブライフ)改善に役立つものと期待しています。

今後は、すでに販売している動物用サプリメントのラインナップを増やすとともに動物用のタンパク質医薬品の研究開発を進めて、アニマルヘルスケア分野への展開を強化します。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140401>

(新製品)

○非食料系の植物を原料としたバイオプラスチックの微生物生産

独立行政法人理化学研究所 環境資源科学研究センター バイオマス工学連携部門酵素研究チーム・沼田圭司チームリーダーらと共同で、樹木に多く含まれる成分であるリグニンの分解物を微生物の炭素源として利用して、バイオプラスチックの一種であるポリヒドロキシアルカン酸(PHA)を合成することに成功しました。

今回の成果から、これまで利用が困難であったリグニンを用いた、微生物による物質生産を目指した基盤技術の構築が期待されます。また、リグニン分解物を含む製紙工場などの廃液利用へも応用が可能であり、幅広いバイオリファイナリー技術と融合することにより、新たなバイオマス産業の構築が期待できます。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140404>

○京都大学 iPS 細胞研究所との共同研究契約を締結

京都大学iPS 細胞研究所と株式会社カネカは、iPS 細胞(人工多能性幹細胞)を用いて創薬スクリーニングを行なうための自動培養装置の開発を目指し、共同研究契約を4月24日に締結しました。本共同研究では、当社は京都大学iPS 細胞研究所(CiRA)とともに、iPS 細胞由来の細胞を用いた治療薬シーズの探索・毒性評価による創薬研究を効率的に行うための装置の開発を行います。

当社は2009年に制定された「KANEKA UNITED 宣言」で健康に関する分野を重点分野の一つと位置付けております。今後も医療、ヘルスケアに貢献する研究および商品開発を積極的に展開していきます。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140508>

KANEKA

カガクでネガイをカナエル会社